

# 2006年後期岡山観測所プログラム小委員会議事録

日時 2006年5月30日(火) 13:00~18:00

場所 国立天文台三鷹小会議室

出席 長田哲也(委員長)、竹内覚、村山卓、伊藤洋一、  
青木和光、中村泰久、岩田生(プロ小幹事、書記)

ex. officio 泉浦秀行(HIDES装置担当者)、柳澤顕史(ISLE装置担当者)

## 1 前回議事録確認

前回の議事録案が回覧され、案どおり承認された。

## 2 岡山観測所ステータス報告

吉田所長が準備したレポートに基づき岩田幹事より報告があった。

ISLEの状況について柳澤氏よりレポートがあった。2006年後期共同利用に供する撮像機能については報告済みの性能が出せる見込みとのことであった。

HIDESのファイバーフィード化計画に関して、開発期間の見通しと観測にもたらすメリットについての質問があった。泉浦氏の回答の要点は以下の通り：

- 開発は2-3年の見通し。
- ただし、イメージスライサーの開発に要する時間には不定性がある。
- イメージスライサーを導入したファイバーフィードの場合、最大で2倍の効率向上を期待できる。
- 高安定化モードの場合、惑星探査に支障ない10m/sオーダーの安定性を実現できるようにする。

施設整備計画のマスタープラン策定についても言及があった。

## 3 188cm望遠鏡課題審査

### 3.1 課題申請申込状況

件数 プロジェクト(継続)1件、学位論文支援プログラム(新規)1件、一般16件

分野別 恒星15(\*1)、系外銀河3、その他はなし

\*1: その他(Stellar Magnetic Fields)1件を含む

装置別件数 HIDES 14, HBS 1, ISLE 3

要求夜数 200夜(プロジェクト36夜、学位論文8夜、一般156夜)

学位論文支援プログラム1件は修士論文用

一般のうち、学位論文 修士1件、博士2件

### 3.2 共同利用夜数決定

通常7月25日付近から共同利用を再開しているが、観測所内で議論した結果、要求夜数が多い状況に鑑み、7月20日と若干早く共同利用を再開できる見込みであるとの報告があった。整備期間は7月1日~7月19日と9月11日~9月24日である。

#### [観測所時間の内訳と議論]

- 観測所行事：特別観望会：1 夜
- エンジニアリングタイム (ISLE)：9 夜 (分光機能試験、姿勢変化安定性試験)
- エンジニアリングタイム (KOOLS)：4 夜 (冷凍機立ち上げ、分光効率測定)
- エンジニアリングタイム (HIDES)：3 夜 (ガイド系更新試験)
- 日韓共同惑星探査計画：9 夜 (1.5 夜/月)
- 観測所時間 (サイエンス)：7 夜  
(但し、HBS を使用する課題が採択された場合は 1 夜供出する)

日韓共同惑星探査計画について、佐藤氏が PI のプロジェクト観測との関係について質問があった。佐藤氏のプロジェクト観測よりも暗い天体が対象でサンプルは重複していない旨説明があった。

観測所からの上記希望が認められた。共同利用期間は 7 月 20 日から 12 月 27 日までの 112 夜となる。

### 3.3 プロジェクト観測 (継続) の審査

- 今期がこのプロジェクトとしては最後であり、完遂してもらいたい。
- すばるやアジア諸国との共同観測などでひろがりが出てきている。岡山で成果を出したからひろがってきたわけだが、この岡山でのプロジェクトの相対的な重みは小さくなったかもしれない。
- これまで観測を続けてきて、変動の兆候がまったくみられない星については観測対象から外すことも可能なのでは。
- 今後も新たな形で計画を継続するという形で書かれている。計画の練り直しはこのプロジェクトが完了した時点で行えばよいのでは。

などの意見が出された。議論の結果、要求通り 36 夜を認めることとなった。

### 3.4 学位論文支援プログラムの審査

申請された課題は前期にも同内容で提出されたもので、前期は学位論文支援プログラムとしては不採択で、一般に組み入れて採択されたものである。観測提案の内容が今期で完了するため、継続的な観測を保證するという学位論文支援プログラムにはなじまないことから、今回も一般観測に組み入れて議論することとなった。

### 3.5 一般観測の審査

議論を経て、以下のように割当夜数を配分した。

代表者	課題名	割当夜数	備考
佐藤 文衛	視線速度精密測定による G 型巨星の惑星サーベイ	36 夜	プロジェクト (継続)
今田 明	プレオネ新活動期の分光変動と NW Ser の国際共同観測	6 夜	プレオネの観測についてのみ採択
栗山 純一	RS CVn 型連星 V711 Tau の時間分解能高分散分光観測による恒星フレアの機構の解明 III	14 夜	
竹田 洋一	早期 B 型星の酸素とネオンの化学組成解析	7 夜	
後藤 友嗣	J-band imaging of highest redshift ( $z > 6.43$ ) QSO candidates	6 夜	
辻本 匡弘	硬 X 線を放射する OB 星団中の早期型星の可視高分散分光観測	7 夜	
伊藤 信成	K バンド撮像観測による edge-on 銀河の scale height の測定	4 夜	
永江 修	可視直線偏光分光観測によるマイクロクエーサーの星周構造の研究	12 夜	
大石 奈緒子	早期型高速自転星のスペクトル線輪郭解析	3 夜	
豊田 英里	ドップラーシフト法による連星系の系外惑星探査	10 夜	
船山 日斗志	プレアデスに属する若い恒星の金属量	7 夜	*

\*: 学位論文支援プログラムとして申請されたが一般観測として採択された

以上、一般観測の採択は 10 件、合計 76 夜。

## 4 その他

### 4.1 レフェリーの報告

前回のプログラム小委員会での議論を受け、今回レフェリーを担当した 12 名の名前を挙げた。次期以降のレフェリー候補については岩田幹事まで意見を出して欲しいとの要請があった。

### 4.2 次回岡山ユーザーズミーティング

例年 8 月下旬に行っているが、今年は IAU General Assembly や観測所の特別公開などがあり、時期的に難しく、9 月下旬 (天文学会後) になる見込みであるとの報告が岩田幹事からあった。

### 4.3 レフェリーから出された審査方法への意見について

今回、PI の氏名を明らかにせずレフェリーに審査して頂く方法を初めて行った。これについて、過去の観測実績や出版状況が分からないと、総合的な評価が行いにくい/行えない、という意見が複数のレフェリーから寄せられた。

過去の観測実施状況を、PI 名を伏せてレフェリーに提示することも検討したが、過去の観測実施状況や出版状況についてはプログラム小委員会が責任をもって判断する、という方が分かりやすい、という意見が大勢を占めたので、1 回で変えることは問題があることもあり、次回も 2006 年後期同様 PI 名をふせて審査してもらうこととした。

一方、次回のユーザーズミーティングでも議論してもらうこととした。

#### 4.4 学位論文支援プログラムへの応募件数について

今回も1件のみ(しかも継続的な観測を希望するものではない)だった。学生がPIの提案がないわけではないのに同プログラムへの申請が少ないのは、関心が低いのだろうか、という意見が出された。

ユーザーズミーティングでプログラム小委員会から是非有効利用を検討するよう呼びかけることとなった。

#### 4.5 電子メール投稿について

指導教官の署名について記入要領の不備があり混乱があったが、それ以外は概ね問題なかった。

PDFファイルの図の解像度が低く読み取りにくかったり、フォントがおかしく数式の表現が乱れているものが見受けられた。

以上